

都市と港湾

青木虹二

港湾関係の文献も数が多いへん多いので、今回も雑誌論文は見送り、単行本に限定して取りあげる。

歴史と沿革

日本の港湾はすでに百年以上の歴史をつみかさねたといえ、港湾論とくらべて港湾史の成果はきわめてとぼしいが、さしあたり次の文献があげられる。

- 内務省土木局編「日本の港湾」一（一九二四）
- 運輸省港湾局編「日本港湾修築史」一（一九五一）
- 佐々木誠治「日本における近代港湾の生成」（堀江保蔵編「海事経済史研究」所収、一九六七）
- 寺谷武明「日本港湾史論序説」（時潮社、一九七二）
- 横浜港については、臨時横浜築港局編「横浜築港誌」（一）

八九六

横浜商業会議所編「横浜港の現勢」（一九二六）

横浜市港湾部編「横浜の港湾」（一九二七）

内務省横浜土木出張所編「横浜港と其修築」（一九三四）

高見玄一郎「横浜港の現状及び将来」

一〇三（横浜経済調査会、一九五三）

五五）

中出栄三、外「伸びゆく横浜港」（神奈川民報社、一九六一）

神奈川経済調査会編「横浜港の研究」（一九六五）

横濱市港湾局編「横浜港二十年の歩み」（一九七三）

横濱税関編「横浜税関沿革」（一九〇二）

神戸港については、

築港調査事務所編「神戸築港調査書」

- （一八九九）
- 神戸市編「神戸築港問題沿革誌」（一九〇八）
- 神戸水上警察署辛酉会編「神戸港史」（一九二四）
- 「神戸港第二期修築工事誌」（一九五〇）
- 第三港湾建設局編「神戸港の思い出」（一九五六）
- 神戸市港湾局編「神戸港史概説」（一九六一）
- 同「神戸開港一〇〇年のあゆみ」（一九六七）
- 同「神戸開港百年史」建設編・港湾編（一九七〇）七二）
- 神戸税関編「神戸税関沿革史」（一九三三）
- 同「神戸税関百年史」（一九六九）
- その他では、
- 東京市役所編「開港記念東京港誌」（一九四二）
- 東京都港湾局編「東京港史」（一九七二）
- 大阪市港湾局編「大阪港史」一〇三（一九五九）六四）
- 名古屋港管理組合編「名古屋港年表」（一九六七）

管理と運営

「海運経営実務講座」（海文堂、一九

七二）

宮崎茂一「港湾計画」（海文堂、一九六四）

北見俊郎、外「港湾運営の実証的研究」（日本産業機構研究所、一九六四）

寺谷武明、外「港湾運営の実証的研究」（同右、一九六六）

向井梅次「港湾の管理開発」（日本ポ

ートシリーズ荷影舎、一九六五）

運輸省港湾局編「港湾管理の現状と問題点」（日本港湾協会、一九六五）

高見玄一郎「埠頭ターミナル発展の一般理論」（一九六六）

住田正三「港湾運送と港湾管理の理論」（成山堂、一九六七）

和泉雄三「港湾行政」（成山堂、一九七三）

神戸市港湾局編「神戸港と市民経済」（一九七五）

運輸港湾産業研究会「横浜ポート・オーソリティ研究」一〇三（一九七一）七四）

埠頭経営研究会編「公私共同企業体による埠頭経営」（一九七三）

同「公企業と埠頭経営」（一九七四）

日本港湾協会編「日本港湾運送事業史」（一九六七）

日通総合研究所編「日本の輸送革新」

一〇二(一九六四)

港湾経済研究所編「コンテナ・オペレーションの経済理論シリーズ」一〇四(一九六七)

中西睦「港湾流通経済の分析」(成文堂、一九六七)

喜多村昌次郎「輸送革新と港湾」(港湾経済研究所、一九六八)

松本好雄「コンテナの輸送実務」(成山堂書店、一九六八)

港湾経済研究会論「輸送革新と港湾産業」(海文堂出版、一九七〇)

飯田秀雄「コンテナ輸送の原点」(成山堂書店、一九七三)

北見俊郎、外「港湾流通」(成山堂書店、一九七四)

日刊海事通信社編「現代日本海運史」(一九六一)

岡庭博「日本における海運の研究」(海文堂出版、一九七〇)

東海林滋「海運論」(成山堂書店、一九七一)

有吉義弥「海運五十年」(日本海事新聞社、一九七五)

経済と港湾産業

矢野剛「港湾経済の研究」(日本港湾協会、一九六四)

喜多村昌次郎「港湾産業」(成山堂、一九七一)

港湾産業研究会編「港湾産業の危機と発展」(海文堂出版、一九七二)

柴田悦子「港湾経済」(成山堂、一九七二)

北見俊郎「アジア経済の発展と港湾」(東大出版会、一九六四)

同編「港湾産業の危機と発展」(海文堂出版、一九七二)

港湾労働

運輸省編「海上労働十年史」(一九五七)

神奈川県匡済会編「横浜港に於ける沖仲仕の調査」(一九二五)

日本港湾協会編「横浜港荷役調査」(一九三〇)

横浜市港湾局編「横浜港における港湾労働者の実態と住宅事情」(一九六五)

労働省職業安定局編「港湾労働の現状と問題点」(一九六八)

横浜地区職業安定審議会編「横浜港における港湾労働の諸問題と対策」(一九六八)

神奈川県労働部職業安定課編「横浜港における港湾労働」(年報継続中)

喜多村昌次郎「港湾労働の構造と変動」(海文堂、一九六四)

大山吉雄「神戸港における港湾労働事情」(兵庫県立労働研究所、一九五二)

神戸大学経済経営研究所編「神戸港に

おける港湾荷役経済の研究」(一九六二)

向井梅次「港湾労働管理の研究」(海文堂、一九五七)

安井二郎、外「港湾労働における労働災害」(成山堂書店、一九七二)

大島藤太郎「封建的労働組織の研究」(御茶の水書房、一九六一)

国会図書館立法考査局編「本邦港湾労働事情」(一九五三)

その他

都市とのかかあり合いについての論議には、

北見俊郎「横浜港市文化の基礎構造」(港湾経済文化論序説)(横浜市教委、一九六八)

同「都市と港」(同文館、一九七六)

神戸市港湾局編「神戸港と市民意識」(一九七六)

柁幸雄、外「都市と交通」(有斐閣、一九六五)

運輸省第一港湾建設局編「港湾の機能分析」とくに都市との関連において」(一九七四)

環境開発問題その他では、

おかべ保「新しい港と環境開発」(月刊工業新聞社、一九七四)

北見俊郎編「都市と臨海開発」(成山堂、一九七六)

神戸市編「広域港湾の開発と発展」(一九六九)

運輸省港湾局編「東京湾における港湾計画について」(一九六一)

同「東京湾港湾計画の基本構想」資料」(一九六七)

同「港湾計画資料集」改訂版(日本港湾協会、一九七四)

港湾総合研究所編「港湾情報産業の実務」(成山堂、一九七四)

日本海事学会「続海事史料叢書」(成山堂、一九六九)

柳原良平「船の本」一〇四(至誠堂、一九六八〜九四)

会社史

さいごに、港湾、海運に係る業界の主な社史、業界史をあげておこう。

「日本郵船株式会社五十年史」(一九三五)

「日本郵船」七十年史」(一九五六)

「大阪商船株式会社八〇年史」(一九六六)

「帝蚕倉庫三十五年史」(一九六四)

「三井倉庫五十年史」(一九六一)

「三井倉庫七十五年史」(一九六二)

「横浜倉庫七十年史」(一九七五)

「横浜回漕協会二十年史」(一九六九)

〈文献は都市研、市図書館、市大図書館所蔵の資料により作成した〉